

は じ め に

NHKの幼稚園・保育所向け番組は、白黒テレビの時代から子どもたちの成長のおお
いなるエネルギーでした。かつての番組ひょっこりひょうたん島の感動や思い出は、今
もなお多くの人々の心と体のエネルギーになっているはずです。放送教育全国大会を迎
える準備のさなかに、NHK教育テレビの新番組がスタートしました。新三銃士という
豪華スタッフ、キャストによる愛とロマンと冒険の人形活劇です。新番組は、最先端技
術と人の手による温かみのある人形劇のようです。再び人々の、夢と空想の世界を限り
なく広げることでしょう。

バラエティー豊かな番組から、子どもの成長にあった番組を選択し、保育に導入しま
した。子守の放送から保育の放送をスローガンに、約一年取りくんで来ました。

アナログテレビから地上波デジタルテレビへと変わる時代になって来ましたが、保育
士と子どもの同時視聴による経験で十分集中できれば、心豊かになり、遊びが発展す
ることが分かりました。将来、地上波テレビならではのインタラクティブな番組へと進化
すれば、保育の情報通信技術 I C T (Information and Communication Technology) 活用
はさらに進むことでしょう。

愛知県幼児視聴覚教育研究会の研究者として、ここ数年地方の放送教育大会や視聴覚
教育大会の運営や参加をして来ましたが、大会への参加者の数などから考えると年々勢
がなくなっているように感じます。放送教育のより一層の興隆を目指し、夢と希望を持
つ 21 世紀のダルトニャンとして、今回の放送教育全国大会で研究発表することをここ
に誓います。

放送はみんなのために、みんなは放送のために・・・

この度、本園の公開保育と研究発表にご参加頂いた皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成 21 年 10 月 27 日

円通寺保育園 園長 安食 幹人



目次

はじめに	1
I 大会要項	3
II 園の概要	4
III 研究目的	5
IV 研究内容	6
1. 放送の特性	6
2. 放送番組の研究と選択	6
3. 心の揺れ	7
4. 放送教育年間指導計画	8
5. 年中児の実践報告	12
6. 年長児の実践報告	22
V 研究のまとめ	32

I 大会要項



平成21年度 第13回 視聴覚教育総合全国大会
 第60回 放送教育研究会全国大会 合同大会(愛知大会)
 第47回 東海北陸地方放送教育研究大会
 第41回 愛知県幼児視聴覚教育研究大会

1 研究主題 「ひとりひとりの夢・空想の発信」
 ～心の揺れを共感し合う放送教育～

2 日 時 平成21年10月27日(火)10:30～16:00

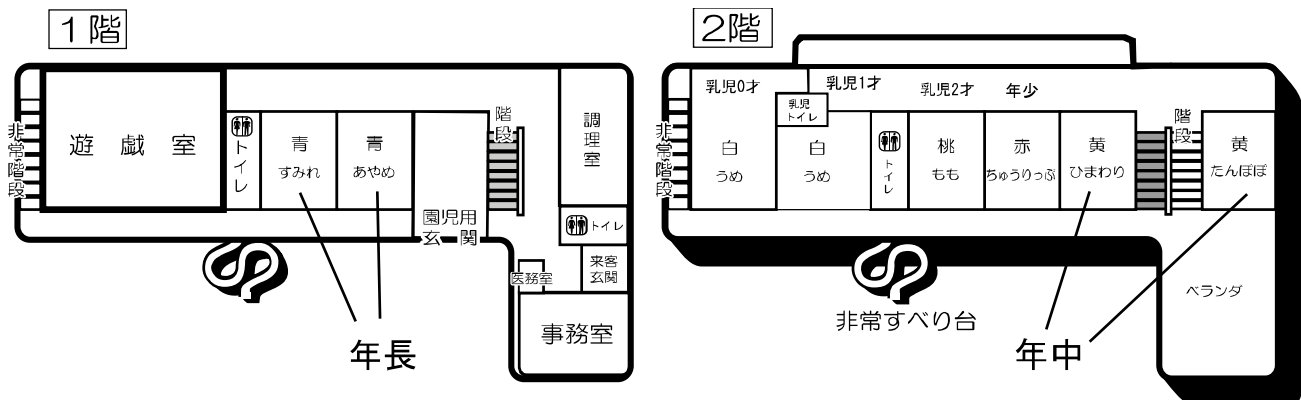
3 場 所 円通寺保育園(公開保育会場) こども未来館ここにこ(研究発表会場)

4 日 程

10:30	11:00	11:40	13:30	14:00	15:00	16:00
受 付	公開保育	移動 昼食	施設見学	研究発表	講演	

5 公開保育 円通寺保育園 愛知県豊橋市上野町字上原101 TEL0532-45-5256

年中児 黄組(たんぼぼ) 上松 千恵 黄組(ひまわり) 榎田 義丈
 年長児 青組(あやめ) 本田 智保・宮本 美希 青組(すみれ) 萩本 知寿



6 開 会 こども未来館ここにこ 愛知県豊橋市松葉町三丁目1番地 TEL0532-21-5525

7 研究発表

8 講 演 大阪教育大学 松本 勝信 教授

9 閉 会

II 園の概要

園の方針

心広く穏やかに、力強くたくましく、自然に無理なく子育てができる場所。

Generous Energetic Natural Kids Station. キャッチフレーズを元気ッズ[GENKIDS]ステーション[STATION]として、脱預かり、子育て宣言をしている保育園です。

保護者と地域とともに、勇気、元気、自信に満ち溢れる健全な子どもを育てるために、より良い環境とより良い経験づくりを心がけ、愛と情熱の子育てをしています。



園の特色

本園の職員は、園長、主事、主任、副主任、クラス指導、発達指導、食育指導、各クラスのリーダーとスタッフのもとで、子どものよりよい育ちを見つめながら保育をしています。通常は年齢別保育を行なっていますが、発達に応じて、月に一度は、なかよしクラスという異年齢児混合クラスで交流をしています。

遊びを基本としたパソコンや、専門講師によるサッカー、英語、エアロビクスを保育に取り入れ、いろいろな分野での体験を通して、子どものよりよい育ちをサポートしています。

又、近くの保育園との交流の機会も多く、年間で計画を立ててそれぞれの園で遊んだり、公園に集合して一緒に運動遊びをしたりして、交流を深めています。

地域の子育て支援事業として、園のキャッチフレーズ「元気ッズステーション」を、毎週土曜日と平日2回の園庭開放を行っています。未入園の子どものゆとりある遊び場として、又、子育てをしている保護者の相談の場になっています。異世代間の交流事業として、近くの高齢者入居施設のお年寄りを招いたり、施設に訪問したりして一緒に触れ合って親睦を深めています。



園児数 (平成21年10月現在)

年長児 53人 年中児 49人 年少児 31人 2歳児 24人 1歳児16人 0歳児 12人 計185人

職員

園長・主事・主任・副主任・保育士・調理員・・・26名

Ⅲ 研究目的



今まで、各クラスにテレビはあったものの昔話のアニメーションを見たり、長時間保育の時に「おかあさんといっしょ」などを見たりする程度にしかテレビを活用していませんでした。

そのような当園が放送教育の全国大会で公開保育を行なうことになり、平成 20 年 11 月 1 日（土）に大阪教育大学教授の松本勝信先生に来ていただき、職員全員で放送教育の基本的な活用の仕方、大切にしていることを聞き、子どもの心を育てるのに放送教育がとても良いことを知りました。

平成 21 年 1 月 27 日（火）、大会に向けて実際に公開保育を行なうクラスを見据えて、視聴実践の公開保育を行ないました。子どもの心の揺れを聞き、遊びに発展したつもりが、保育士が選んだ中での遊びである設定保育にしかなくなっていなかったことを痛感しました。

この日から今までの保育を見直し、どうしたら子どもの心を育てられるのかを研究目的とし、『0からのスタート』をすることになりました。

IV 研究内容

1. 放送の特性

現代社会の子どもの育ちは、知識ばかりが目立ち、人を思いやる心に乏しいように感じる。知識は一人でも習得できるが、思いやる心を豊かにするには相手がいる。紙芝居などは、演じる側と見る側に分かれてしまうが、テレビ視聴は、一つの画面を通して保育士と子どもが同一体験できる。視聴を続けることにより、思ったこと感じたことを様々な方法で表現し、共感し合い、心豊かになる。

2. 放送番組の研究と選択

NHKによる幼稚園・保育所向け番組の公式サイト(www.nhk.or.jp/kids)から、各番組を視聴し、その中から子どもの育ちを考え主題にふさわしいと思われる番組を選んだ。

「つくってあそぼ」は、ワクワクさんとゴロリが楽しくやりとりしながら、身近な素材(牛乳パック、発砲トレー、空き缶、新聞紙など)で簡単に目をみはるものを作っていく。

まねて作りたい心から、やがてまねを超え、自分だけの作品作りに意欲を持ち、作り上げていく喜びを味わえる。又、造形を通して用具(ハサミ、セロテープなど)を使う経験にもつながる。

つくってあそぼ

教育テレビ火曜日 午前 10:30~10:45

教育テレビ土曜日 午前 7:30~ 7:45



こども
にんぎょう劇場

教育テレビ月曜日 午前 10:30~10:45



「こどもにんぎょう劇場」は、昔話や名作、現代の優れた創作童話などがあり、立体的な人形と臨場感あふれる音響やナレーションで劇として作られていて、視聴者を登場人物化するほど引き込む。そんな登場人物を思いやる心が、子どもの心を豊かにする。

以上のことから、子どもの発達段階と照らし合わせ、年中児は「つくってあそぼ」、年長児は「こどもにんぎょう劇場」を継続視聴していく。

【視聴活動における配慮事項】

- ①テレビの周りに視覚的に刺激のあるものを置かない。
- ②テレビの画面に反射する光をさえぎる。
- ③視聴操作を手際よく始め、大きすぎず小さすぎず、子ども同士のつぶやきが聴こえる程度の音量にする。
- ④保育士は、子どもと一緒に視聴を楽しみ、保育士の様子がどの子どもからもいつでも見られる位置で視聴することを心がける。
- ⑤集中できない子どもは保育士の近くに場所を移動するなどして、情緒の安定をはかる。
- ⑥視聴後、直ちに心の交流ができるような雰囲気大切に作る。

3. 心の揺れ

視聴活動における心の揺れを、視聴前・視聴中、イメージ交流、発展活動、見直し交流の4つの場面を通して考える。

視聴前・視聴中 ・ ・ ・ ・ 二人以上の同一体験から生まれる様々な思い

準備を始めると、視聴の期待感が現れてくる。

心が揺れると、保育士の様子を見て、自分と同じ思いであることに安心する。

つぶやきが集中の度合いによって、次のように変わっていく。

- ① 関係のないおしゃべりをする→②今見ている場面を口に出すようになる→③「やっぱり」などと言って次の場面を予測するようになる→④やがてつぶやくことすらできない同一体験が、気持ちの高まりへ効果を発揮している。

イメージ交流 ・ ・ ・ ・ 視聴直後の心の交流

友達の前で思いを言えなかった子どもが、自信を持って言えるようになる。

初めは、同じ思いであることを喜んでいるが、やがて自分と異なる思いがあることに気づき、それを受け入れられるようになる。

番組内容を見聞きしたことだけの表現から、思ったこと、感じたことの表現へ次第に移り変わる。

保育士は、放送教育を特別に意識し過ぎず、普段の保育と同じように心がける。

発展活動 ・ ・ ・ ・ 心の揺れからの遊び作り

表現方法には、言葉の表現、体の表現、絵に描く表現、造形の表現、音の表現の5つの表現がある。

イメージ交流から生まれた心の揺れを自分らしく表現することで更に想像力が膨らんでいく。

自分だけで作っていたものを友達と一緒に作ることになり、共感が深まる。

見直し交流 ・ ・ ・ ・ 自分の遊び作りと満足感の交流

初めは、自分の作品を紹介するだけだったが、それを作った時の思いと一緒に表現できるようになる。

作ることは満足ばかりではなく、思うようにいかないこともある。友達の作品を見ることでヒントとなり、次回の作品作りへの意欲となる。

保育士や友達に認められることで自信へとつながる。

満足の繰り返し、夢・空想を発信する。

4. 放送教育年間指導計画

(1) 年中児 黄組 (たんぽぽ・ひまわり)

「つくってあそぼ」

◎…視聴前・視聴中 △…イメージ交流 □…発展活動 ☆…見直し交流

年間目標	<ul style="list-style-type: none"> 番組を通して、様々な材料、用具に触れ、イメージを膨らませて、造形あそびを楽しむ。 視聴で得た心の揺れから、保育士や友達と、思ったこと、感じたことを共感し合い、異なる思いにも関心を持つ。 保育士や友達から認められることを喜び、自信を持つ。 	
期	I期(4～5月) 2回	II期(6～8月) 4回
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ◎保育士や友達と一緒に楽しく視聴する。 △保育士の援助を受けながら、感じたことを素直に表現する。 □番組をまねて作って遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎保育士や友達と、イメージを膨らませながら楽しく視聴する。 △思ったこと、感じたことを、言葉や動作で表現する。 □番組のまねだけでなく、自分なりに工夫して作ることを楽しむ。
視聴番組	<p>「しんぶんおふろ」 「つみきがへんしん」</p>	<p>「わくわくおしやれ」 「かぎぐるま」 「うかべてスイスイ」 「おってうごかす」</p>
予想される子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎視聴を楽しみにしている。 ◎興味をもったところは視聴しているが、興味のないところでは、おしゃべりやよそ事をする。 △楽しかった場面を、「おもしろかった」など、簡単な言葉で表現する。また、表現できない子どももいる。 □用具の使い方を教わりながら、保育士と一緒に作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎視聴することを伝えると、喜んで準備をする。 ◎友達と笑いあったり、つぶやいたりして楽しく見る。 △思ったことがあるがどう表していいかわからなかったり、恥ずかしがったりして言えない。 □用具の使い方を教わりながら、保育士と一緒に作りたいものを作る。
援助と配慮	<ul style="list-style-type: none"> ◎テレビの位置、椅子の並べ方を工夫し、集中して視聴できる環境を作る。 ◎一緒に視聴しながら、子どもの様子をよく見る。 △一人一人の思いを受け止める。「おもしろかった」以外の言葉でも表現できるようにする。 □用具の使い方を教え、できないところは一緒に楽しく作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎情緒が安定しない子どもは保育士の近くで落ち着いて視聴できるようにする。 ◎子どもの心の揺れを感じながら、一緒に楽しく視聴する。 △共感することを楽しみながら、思ったことを言葉で表現できるようにする。 □子どもが作りたいものを一緒に作り、次第に形になることを楽しむ。
子どもの姿の実態	<ul style="list-style-type: none"> ◎「今日もワクワクさん見る？」と楽しみにしている。 ◎友達と笑いあったりつぶやいたりして見ている。 △自分の思いを言える子どももいるが、友達と同じことを言いたいため同じ表現をしてしまう子どももいる。 □作りたいという思いはあるが、実際には作れず困ってしまう。また、作りたいものが見つからず、友達の様子を見ている子どももいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎進んで椅子を並べて準備する。 ◎興味をもった場面で「これ作りたい」と友達に言ったり、一緒に笑ったりする。 ◎「○○が作れるんだよ」と先を予測してつぶやく子どももいる。 △思いを聞いてもらいたいため、まだ友達が言っているときに言い始めてしまう子どももいる。 □作りたいものは決まっているが作り方がわからず保育士に聞いてくる。 ☆作ったものを見てもらおうことを楽しみにしている。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったことはあるが言えない、又は、恥ずかしくて言えないので、保育士が少しずつ言葉にできるように援助する。 ・番組で見たものを作りたい思いはあるが、実際に作ろうとするとイメージどおりにはいかず、保育士に援助を求めてくる。できないところは一緒に作り、形になっていく楽しさを味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早く思いを聞いてもらいたい気持ちを受けとめながらも、友達の言うことをしっかり聞くことの大切さを伝える。 ・番組と同じように作りたいが、作れない子どもにはさりげなく援助をし、自分で作った満足感が味わえるようにする。 ・作品を見せることを楽しみにしているため、十分認め、友達の作品にも興味をもてるようにする。

年間指導計画作成に向けて

日々の子どもの成長を、見通しを立てて支えていきたい思いから年間の計画作成に取り組んだ。初めに期でのねらいを立て、実践、評価は次の期へ生かされていくよう配慮した。

配基本的慮	<p>◎落ち着いて視聴できる部屋の環境を整える。保育士も一緒に視聴し、子どもたちの心の揺れを受け止める。 △思ったことを表現しやすい雰囲気を作り、子ども同士のイメージの交流を計る。 □様々な材料を用意し、イメージを大切にしながら、見守ったり、一緒に作ったりする。 ☆思いや表現を認め合い、満足感が得られるようにする。</p>	
期	Ⅲ期（9～12月） 4回	Ⅳ期（1～3月） 2回
ねらい	<p>◎保育士や友達と、自分なりのイメージを膨らませながら視聴する。 △思ったこと、感じたことを、言葉で表現する。 □作りたいものが作れるようになる。 ☆作ったものを友達に見せて喜ぶ。</p>	<p>◎保育士や友達と、自分なりのイメージを膨らませながら、集中して視聴する。 △思ったこと、感じたことを言葉で表現し、友達の思いも聞こうとする。 □用具の使い方に慣れ、視聴のイメージを膨らませ工夫して作る。 ☆作ったものを認められることで自信を持つ。</p>
視聴番組	<p>「ダンボールタイヤ」 「あきかんゲーム」 「レストラン」 「どっちへいくの」</p>	
予想される子どもの姿	<p>◎つぶやいたり、笑ったりするだけでなく、番組の先を予想している。 △思ったことを聞いてもらいたい気持ちが強すぎて、友達の話を開けない。 □必要に応じて援助を受け、作りたいものを作る。 □遊んだり、作り直したりして、遊びが更に発展する。 ☆作ったものを見せ合って楽しむ。</p>	
援助と配慮	<p>◎環境を整えて落ち着いて視聴できるようにする。 ◎子どもの心の揺れを感じながら、一緒に楽しく視聴する。 △一人一人の思いを受け止め、友達にも伝えることで、他の子の思いに興味を持てるようにする。 □子どものイメージを大切にしながら、自分で作れるように見守る。 ☆認められる満足感を味わえるようにする。</p>	
子どもの姿の実態		
評価と課題		

4. 放送教育年間指導計画

(2) 年長児 青組 (あやめ・すみれ)

「こどもにんぎょう劇場」

◎…視聴前・視聴中 △…イメージ交流 □…発展活動 ☆…見直し交流

年間目標	<ul style="list-style-type: none"> 番組を通して、お話の世界を楽しみ、感性と想像力を高める。 登場人物の気持ちになって、様々な方法で表現する。 友達の思いを大切にすることで、優しさや思いやりの気持ちを持つ。 	
期	I期 (4～5月) 2回	II期 (6～8月) 5回
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ◎友達や保育士と楽しく、一緒に視聴する。 △お話に興味を持ち、思ったこと、感じたことを言葉で表現する。 □お話の一場面を絵で描いたり、紙で切って貼ったりして表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎友達や保育士と一体感を持って視聴する。 △お話の世界に引き込まれ、思ったり、感じたりしたことを言葉でしっかりと表現しようとする。 □心の揺れを楽器や廃材、言葉や文字などで、喜んで表現しようとする。
視聴番組	<p>「さんねんねたろう」 「おやゆびひめ」</p>	<p>「ブレーメンの音楽隊」 「ふるやのもり」 「銀の泉」 「あまんじゃくとうりこひめ」 (あやめ) 「さるじぞう」 (すみれ) 「かたあしだちょうのエルフ」</p>
予想される子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎視聴の準備を始めると期待をし、座り出す。 ◎登場人物のユニークな動きや言葉に反応して笑う。 △保育士の問いかけに元気に答えるが、言葉にできないこともある。 □保育士に聞きながら、友達と一緒に作って喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎視聴に興味を持ち、椅子を持って自分から座る。 ◎思ったこと感じたことを友達や保育士に伝えたい為、大きな声で言う。 △手をあげて、思ったことを言おうとしているが、しっかり言えないこともある。 □絵を描いたり、紙を切って作ったりする。又は、演じたり、文字を書いたりする。
援助と配慮	<ul style="list-style-type: none"> ◎落ち着いて視聴できる環境を整える。 ◎子どもの表情が見える場所で一緒に視聴する。 △子どもの思いが表現しやすい環境を作り、受け止め共感していく。 □子どもに合わせた言葉がけをし、楽しく表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎環境を整えて、落ち着いて視聴できるようにする。 ◎子どもの心の揺れに共感する。 △子どもに共感することで、安心感が持てる様にする。又、友達の思いに興味を持てるようにする。 □必要な物を準備し、楽しく表現できる環境を作る。
子どもの姿の実態	<ul style="list-style-type: none"> ◎椅子を持ってきて、興味を持って座る。 ◎視聴中は、思い思いに子どもがつぶやいたり、笑ったりする。 △手をあげて思ったことを言う子どもや、友達の思いに興味を持ってない子どもがいる。 □一つ作り満足する子どもや、複数作りたい子どもがいる。 □様々な材料で表現を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分で好きな場所に座り、楽しく視聴する。 ◎落ち着いた雰囲気の中で、集中して視聴し、時々つぶやく。 △「○○がおもしろかった」だけでなく登場人物の気持ちになり、思いを伝えようとする。 □ブロックや廃材で作ったり、文字を書いたりして喜んで表現する。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の経過とともに子どもの興味が薄れていくことを感じた。友達の思いには、まだ興味がない子どももいるので、人の話をまず開けるように日頃から声をかけ身につくようにする。 ・発展活動では、絵を描いたり、紙を切ったり、貼ったりすることが多い。文字を書く、演じるなどの表現を保育に取り入れ、表現する楽しさを伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士がイメージ交流を進めていたが、子ども同士で交流が進められるような関わりをする。 ・発展活動では、登場人物を工夫して作ったり、思いを文字で書いたりできるようになってきた。更にお話を自分なりにイメージして楽しめるように援助する。

配 基 本 的 的 慮	◎落ち着いて視聴できるように環境を整える。子どもの心の揺れを受け止め、保育士も共感しながら視聴する。 △思ったこと、感じたことを共有や分有できるように言葉がけをしていく。 □心の揺れを表現できるような援助をし、満足感が味わえるようにする。 ☆子どもの思いに共感しながら、楽しさを味わえるようにする。	
期	Ⅲ期（9～12月） 6回	Ⅳ期（1～3月） 2回
ね ら い	◎友達や保育士と登場人物の気持ちを考えながら楽しく視聴する。 △お話の内容を理解し、思ったこと、感じたことを言葉で積極的に表現しようとする。友達の思いに気づく。 □友達と工夫して作ったり、文字で書いたりしてお話の思いを積極的に表現する。	◎友達や保育士と、自分なりにイメージを膨らませながら、集中して視聴する。 △思ったこと、感じたことを言葉で表現したり、友達の思いも聞いたりすることで、更にイメージを膨らませていく。 □お話の続きを空想し、その思いを友達と表現することを楽しむ。 ☆自分の思いや作ったものを認めてもらい、自信を持つ。
視 聴 番 組	「さるじぞう」（あやめ） 「あまんじゃくとうりこひめ」（すみれ） 「パックのいたずら」 「ともだちくるかな」 「きつねの窓」 「とら猫とおしょうさん」 「ひとつのねがい」	
予 想 さ れ る 子 ど も の 姿	◎視聴する事を伝えると、自分で喜んで準備をする。 ◎お話の世界に引き込まれ、ほとんどつぶくことすらなく視聴をする。 △手をあげなくても、自然と子どもから思ったことを言う。友達の思いを考えたり、同じ思いであることを喜んだりする。 □自分の思いを積極的に表現する。友達とお話を演じたり、言葉で伝えたりする。	
援 助 と 配 慮	◎視聴できる環境を作り、子どもの様子を見守っていく。 △落ち着いた雰囲気を作り、子どもから自然に思いが伝えられるようにする。必要に応じて保育士もどう思ったかを話し、子どもが思いを伝えやすくする。 □様々な方法で思いを表現できるように時には保育士が作って見せたり、友達と夢を膨らませ作る楽しさが味わえるように仲立ちしたりする。 ☆思ったことを言ったり、聞いたりすることを繰り返し、人の思いを意識する。	
子 ど も の 姿 の 実 態		
評 価 と 課 題		

5. 年中児の実践報告

(1)黄組(たんぽぽ) 番組名「つくってあそぼ」

クラス人数 25名(男児16名、女児9名) 保育士:上松 千恵

【年度当初の子どもの様子】

- ・進級したことを喜び、様々な活動に積極的に取り組むことができる。
- ・環境が変わったことで、子どもたちは、落ち着きがなく、自分のことで精一杯で、友達への関心が少ない。
- ・友達とけんかをした時は、相手の嫌なところやいけないところはすぐに気づき、保育士に訴えてくるが、良さや優しさには気づかない。

【ねらい】

- ・視聴を通して、様々な材料や用具に触れ、イメージを膨らませて造形あそびを楽しむ。
- ・思ったこと、感じたことを、保育士や友達と一緒に受け止め、違う思いがあることに気づく。

【視聴活動での配慮】

- (視聴前・視聴中) ・落ち着いて視聴できる環境を作り、番組に期待できるようにする。
・保育士も一緒に視聴し、子どもたちの心の揺れを受け止める
- (イメージ交流) ・一人一人の思いを受け止め共感し、友達の思いにも関心が持てるようにする。
- (発展活動) ・子どものイメージを大切にしながら、見守ったり一緒に作ったりする。
- (見直し交流) ・一人一人の思いや表現を認め、満足感が味わえるようにする。

実践の記録

実践事例1 視聴日 平成21年4月24日 番組「しんぶんおふろ」

視聴日 平成21年5月18日 番組「つみきがへんしん」・・・



実践事例2 視聴日 平成21年6月16日 番組「わくわくおしゃれ」

視聴日 平成21年7月 3日 番組「かぎぐるま」・・・・・・・・

園の行事(親子の集い)にて



視聴日 平成21年7月23日 番組「ペットくん」・・・・・・・・



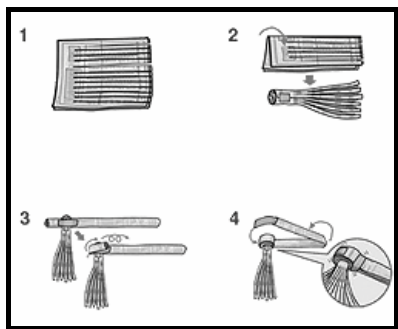
視聴日 平成21年8月7日 番組「うかべてスイスイ」・・・・・・・・



実践事例3 視聴日 平成21年8月31日 番組「おっとうごかす」

視聴日 平成21年4月24日

番組組	「しんぶんおふる」	内容 古新聞を箱に入れて、お風呂に見立てて遊びます。 【主な材料】 新聞紙・空き缶・ダンボールなど 「しんぶんシャワー」 1. 新聞紙を2枚重ねて細く切ります 2. 端を丸めてテープで止めます 3. 新聞紙を丸めて作った棒の先に(2)をテープで止めます 1回折ってから、2回くらい巻きます) 4. 棒を半分に折って完成
-----	------------------	--

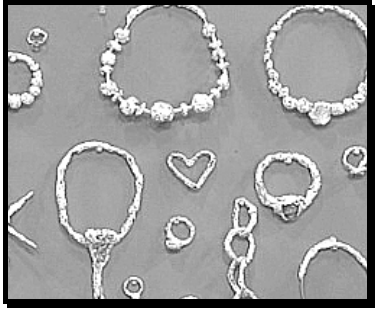


番組見本



	視聴前・視聴中	イメージ交流	発展活動	見直し交流
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 公開保育の視聴中、大勢の人が部屋に入ってくると「お客さんだ」と話したり、ふざけたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 当ててもらいたがって手をあげるが、当てられると発表できなくなる。 寝転んだり、席を離れて遊び始めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「シャワー」か「ブラシ」のどちらを作りたいかを決め、説明を聞き意欲を持って作り始める。 床にハサミを置くなどハサミの扱い方で危ない場面が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作ったものを見せ合い、作品が完成した喜びを共感しあう。 「タオルが作りたい」「石鹸が作りたい」という意見が出る。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの歓声に反応し何度も子どもを見ると、子どもも保育士を見るため目が番組から離れ集中できなくなるので、保育士は見るのではなく耳を傾け共感していくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 恥ずかしくて言えない子どもには、発展活動中に思いを聞く。 共感の再確認のため「〇〇ちゃんは〇〇が面白かったんだね」と子どもの名前と思ったことをセットで発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを選択させたり作り方を説明したりし、強く意図した保育となってしまう。次回からは、子どもの主体性を大切にしたい。 ハサミで怪我をしないよう、正しい扱い方を教える。 	<ul style="list-style-type: none"> 片付けを行う前に交流を始めたので、すぐに集まることが出来なかった。又、集中もしなかった。片付けを先に行い、集中できる環境を整える大切さを感じた。

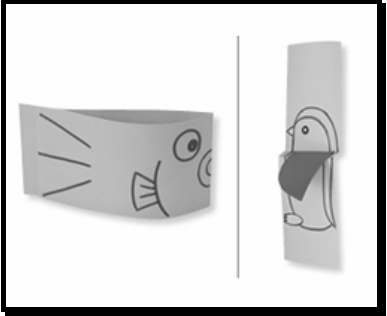
視聴日 平成21年6月16日

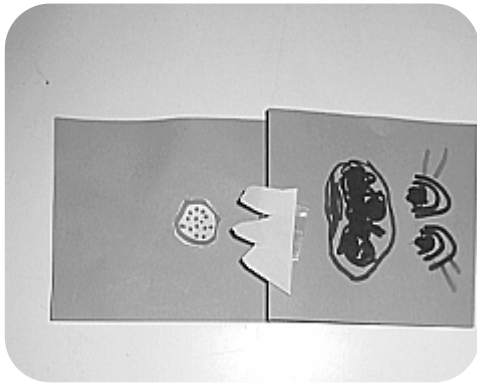
番組組	<p>「わくわくおしゃれ」</p>  <p>番組見本</p>	<p>内容</p> <p>サングラスやネックレスなど、ゆかいなアクセサリーを作ります。</p> <p>【主な材料】</p> <p>紙コップ・アルミホイル・色画用紙・ボール紙</p>
-----	---	--



	視聴前・視聴中	イメージ交流	発展活動	見直し交流
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 番組を早く見たい気持ちから、椅子を並べることが早くできるようになる。 内容がおもしろく、笑ったり、つぶやいたりすることが多い。 視聴中の姿勢が徐々に悪くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「お姫様がおもしろかった」や「王子ども様がおもしろかった」という意見が出るが「どんなところが」と聞くと、答えに詰まってしまう。 自分の意見を発表し終わると、友達とふざけてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で作りたい気持ちはあるが「作れないから、先生作って」と数人が言う。 「〇〇ちゃんのストローが欲しい」と友達の使う材料にも関心を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「〇〇を作った」「作るのがおもしろかった」などと意見を嬉しそうに発表し、作った喜びを共感しあう。 友達の作品を見て、「今度はあれ作りたい」と言い、友達の作品にとっても関心を持っている。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> 頭出しや音量調節、接触などに気を付けて準備を行ったので、スムーズに見ることが出来た。また、子どもも集中が途切れることがなかった。 視聴前に姿勢に気をつけるように約束をする。 	<ul style="list-style-type: none"> どんなところがおもしろかったのかなど、細かい気持ちを表現できるように言葉掛けをする。 みんなで話し合えるような交流にし、友達の意見に興味を持ち楽しく聞けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料を欲しがると子どもの対応に追われ、落ち着いて子どもと接することが出来なかったため、次回は材料コーナーを設置し、材料を選べるようにする。 作れない悲しさではなく、どんな簡単なものでも良いので、考えて作ったという満足感が味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 作った作品を常によく見るところに置いておき、友達の作品に興味を持ち、次回の遊びにつなげられるようにする。

視聴日 平成21年8月31日

番組組	<p>「おっとうごかす」</p>  <p>番組見本</p>	<p>内容</p> <p>紙の折り目をいかした、楽しい動くおもちゃを作ります。</p> <p>【主な材料】 画用紙・色画用紙・ケント紙・ボール紙・ろうそく</p>
-----	--	---



	視聴前・視聴中	イメージ交流	発展活動	見直し交流
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴準備で、椅子をすすんで並べることができる。 ・視聴中とても真剣に見ており、なかには「難しそう」という言葉が聞かれる。 ・「〇〇が作れるんだよ」と先を予測してつぶやいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早く思いを発表したいので、大勢の子どもが一斉に手をあげる。なかには発表を待てず、前に出てきて「僕はね、僕はね」と、思いを言い始めてしまう子どもがいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作りたいものは決まっているが仕掛けの作り方が難しく、なかなか作り始めることが出来なかったり、「どうやって作る」と聞いたりする。 ・難しい仕掛けのものを作っている子どもに対し、「すごいね」と関心を示している。 ・友達と相談し合い、動物を一枚の紙に貼り合わせ、池や木を描き動物園を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で発表することを楽しみにしており、自信を持って発表できる。 ・「楽しかった」と言う意見だけでなく、「作るのが難しかった」「簡単だった」と言う意見も多く出る。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴準備が出来たことを十分誉め、視聴に対し喜びや期待を持って取り組めるようにする。 ・テレビ視聴に対する見方が『現在を楽しむ』から『予測して楽しむ』へと変わり、成長を感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表したい気持ちを大切に。又、人の意見を聞いたり、順番に発表したりすることの大切さも知らせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕掛けが難しかったので、作りたい物ではなく簡単な作品作りをする子どもが多かった。作りたい物を作るよう、個別に作り方の説明をしたり、援助をしたりする。 ・友達と相談し合い、動物園という意外な展開に発展したことに、感動し嬉しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「作るのが難しかった」など、うまくいかなかった事も発表できた姿に成長を感じた。 ・友達作品にも興味を持てるような進め方、一人一人行うことで時間が長くなるので飽きの来ない進め方を工夫する。

テレビ視聴の日は視聴することを楽しみにしており、椅子を並べるなどの視聴準備を積極的に行うようになった。視聴中は、周りが気になってざわつき、私語もあったが、集中して見ることができ、今では「〇〇が作れるんだよ」と先を予測する姿も見られる。視聴後は、恥ずかしがってなかなか発表できなかった子どもも6月頃から自信を持って発表できるようになり、友達の思いを聞くことも楽しくなってきた。作品作りでは、特に自分の思いが強く表現できるようになり、材料の要求ができるようになったり、友達と教えあうことができるようになったり、大きな変化が見られるようになった。

見直し交流では「楽しかった」だけでなく、8月には、「難しかった」など作ったときの様子なども伝えられるようになり、友達から「すごい」と言われ、うれしそうにしている。友達に対する関心が少しずつ強まってきたように感じる。

「今度はいつワクワクさんを見るの?」「何を作るの?」と、視聴活動をとっても楽しみにしており、材料、用具を考え、工夫して作るようになった。又、友達と同じ思いであることを喜ぶだけでなく、7月に違う思いがあることにも気付き関心を持つようになった。

今後の課題として、友達の思いを聞いていく中で心の共有・分有をし、相手の気持ちに気づけるようにする。又、友達の作品をまねたり、作れず困っている子どもを助けたりする中で、友達に対する関心をさらに深め、自身も友達から認められることで自信を持てるようにしていく。



5. 年中児の実践報告

(2)黄組(ひまわり) 番組名「つくってあそぼ」

クラス人数 24名(男児14名、女児10名) 保育士：榎田 義丈

【年度当初の子どもの様子】

- ・保育士や友達が話をしているにもかかわらず、集中して聞けず、ふざける。
- ・うまく言葉にできないが、なんとか気持ちを伝えようとしている。
- ・活動に興味を持たず、ふざけたり友達と違う遊びをする。

【ねらい】

- ・自分の気持ちを言葉などの方法で表現できるようにする。
- ・材料を自分で選び、視聴で膨らませたイメージで工夫して作る。
- ・作ったもので楽しく遊び、友達との遊びにも発展できるようにする。

【視聴活動での配慮】

- (視聴前・視聴中) ・安心し、集中して見られる位置に座れるようにする。
- (イメージ交流) ・一人一人の思いを聞き、子どもが、友達と同じ気持ち、違う気持ちがあることに気づくようにする。
- (発展活動) ・満足できるものが作れるように十分に材料を用意し、見守ったり、一緒に作ったりする。
- (見直し交流) ・全員の顔が見えるように集まって、発表できるようにする。
- ・子どもの思いや作品を認めることで、満足感を味わえるようにする。

実践の記録

実践事例1 視聴日 平成21年4月24日 番組「しんぶんおふる」

視聴日 平成21年5月19日 番組「つみきがへんしん」・・・



視聴日 平成21年6月18日 番組「わくわくおしゃれ」・・・



視聴日 平成21年7月 3日 番組「かぎぐるま」・・・・・・・・

園の行事(親子の集い)にて



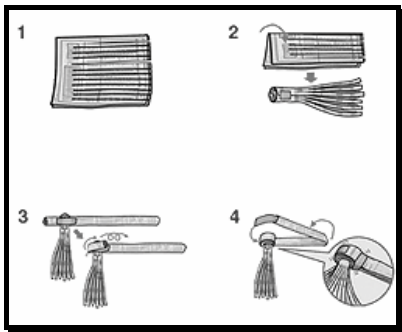
実践事例2 視聴日 平成21年7月23日 番組「ペットくん」

視聴日 平成21年8月7日 番組「うかべてスイスイ」・・・



実践事例3 視聴日 平成21年8月20日 番組「おっとうごかす」

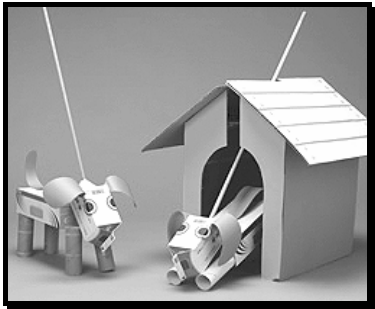
視聴日 平成21年4月24日

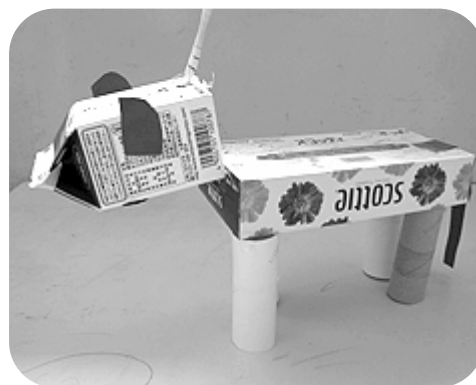
番 組	<p>「しんぶんおふる」</p>  <p>番組見本</p>	<p>内容</p> <p>古新聞を箱に入れて、お風呂に見立てて遊びます。</p> <p>【主な材料】 新聞紙・空き缶・ダンボール</p> <p>「しんぶんシャワー」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞紙を2枚重ねて細く切ります 2. 端を丸めてテープで止めます 3. 新聞紙を丸めて作った棒の先に(2)をテープで止めます 1回折ってから、2回くらい巻きます 4. 棒を半分に折って完成
--------	--	---



	視聴前・視聴中	イメージ交流	発展活動	見直し交流
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビに興味を持てず、落ち着いて見ることができない。立ち上がったたりふざけたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉にできなかったり、恥ずかしがって気持ちをうまく言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作りたいものが決まっている子どもは好きなように作っていくが、決まらない子どもは、なかなかとりかかれず、違う遊びをしてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに集まらない。作るのが途中の子どもは続きを作るのに集中し、話を聞くことができない。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけは最少限にして、子どものつぶやきを受けとめつつ視聴に集中する。 ・小さい子どもは前に座り、情緒が安定しない子どもは保育士の近くに座るようにする。 ・テレビの音量が大きすぎたので、事前に調節する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育で大人が大勢いたので、子どもは興奮してしまい、思いを聞けなかった。 ・伝え方がわからない子どもには、保育士が見本になり子どもに伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作りたいものが決まらない子どもには、視聴で高まっていた場面について話題にしたりして、少しでもイメージして作り出せるように話をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞遊びは盛り上がるので、片づけをして、落ち着いてから見直し交流をする必要があった。 ・作ったものを見えるところに置き、次の日の遊びにつなげる。

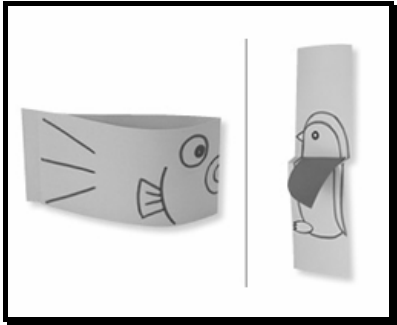
視聴日 平成21年7月23日

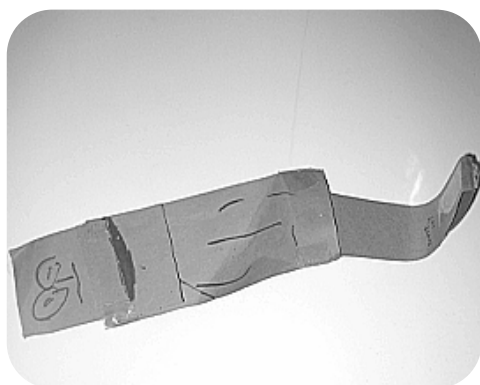
番組組	<p>「ペットくん」</p>  <p>番組見本</p>	<p>内容</p> <p>かわいい動物を作って動かしたり、動物になったりして遊びます。</p> <p>【主な材料】 画用紙・色画用紙・牛乳パック・ティッシュの空き箱・トイレットペーパーの芯など</p>
-----	--	--



	視聴前・視聴中	イメージ交流	発展活動	見直し交流
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> テレビの前に椅子を持ってきて、視聴を楽しみにしている。 保育士に「今日はどんな物を作るの」と期待して聞いている。 視聴中、子どもの姿勢が悪くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちを伝えたい子どもが増え、友達が発表しているときに「ハイ」「ハイ」と手をあげて、気持ちを言おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 用意してある材料を使い、番組をまねて作ろうとする。 番組の内容とは全く違うものを作ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品を楽しそうに動かして見せる。 「足が動くペットくんが作りたかった」と言う子どもがいる。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> 視聴中の姿勢が悪くなる子どもがいたので、姿勢よく視聴ができるように声を掛けていく。 楽しみにしている気持ちを受け止め、一緒に視聴し、つぶやきを聞きながら楽しさを共感する。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達が発表している時に、話をしたり、意見を言い始めたりしてしまう子どもがいたので、友達の発表中は静かに集中して聞くように日ごろの保育を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料コーナーを設けたことで、材料を選び、作り始めることができた。 番組と全く違うものを作ろうとする子どもは、なぜ違うものを作ろうとするのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 作った作品を嬉しそうに見せる姿を見て、嬉しかった。これからも子どもと共感しあえる保育を大切にする。 友達が発表していても自分の作品を見ていたり、友達と話をしたりしている子どもが多くいたので、興味を持てるような言葉がけや、集中して見られる環境を作っていく。

視聴日 平成21年8月20日

番組組	<p>「おっとうごかす」</p>  <p>番組見本</p>	<p>内容</p> <p>紙の折り目をいかした、楽しい動くおもちゃを作ります。</p> <p>【主な材料】 画用紙・色画用紙・ケント紙・ボール紙・ろうそく</p>
-----	--	---



	視聴前・視聴中	イメージ交流	発展活動	見直し交流
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・声をかけるとすぐに椅子を持ってテレビの前に集まる。 ・視聴しながら保育士や友達の表情を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士が聞かなくても、手をあげ、発表しようとする。 ・作りたいものを言い終わると、早く作りたくて友達の話を集中して聞けないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージしたものを作り始め、できあがると保育士や友達に見せる。 ・作ったものが番組のものとは違うことに気づき、テレビと同じものが作りたくて、作り方を保育士に聞いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・番組と同じものはできなかつたが、作り方を考え、みんなに見せて満足感を得る子どもがいる。又、その子どもの作り方が気になり、見せてほしいと言う。 ・発表の時に声が小さい子どもがいる。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・同一体験をできるように、子どもの目線が見える位置に座っていたので、子どもと一緒に番組を楽しめた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を言った後、近くに座っている友達と話をしてしまう子どもがいたが、声をかけると友達の話を静かに聞くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・番組と同じものを作りたい子どもに、作り方をすぐに伝えるのではなく、一緒に考え、作りながら工夫したり、発見したりする必要があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい声で発表する子どもや、思うように言えない子どもには、言葉を整理して言い直さずに、聞き役になる。



経験が増すごとに、視聴中は、落ち着き集中して見ることができるようになってきた。又、面白いところがあると友達と顔を見合わせたり、喜んだりしている。

イメージ交流では回を増すごとに、気持ちを表現できるようになってきている。はじめは「おもしろかった」、「たのしかった」だけだったが、「〇〇が作っているところが面白かった」など、6月頃には、具体的に言える子どもが多くなってきた。自分の気持ちを伝える時に声が小さい子どもや「楽しかった」の一言で終わってしまう子どもがまだいるので、しっかり気持ちを伝えられるようにする。自分で作りたいものを決め、作ることを楽しみに待っている姿が見られる。

発展活動では用意してある材料を使って、作りたいものを工夫しながら作れるようになり、楽しんでいる子どもが増えた。番組と同じような仕掛けが作りたい子どもが多くなり、作り方がわからないと保育士に聞いてくるようになった。見直し交流では、積極的に、うまくいったところ、うまくいかなかったところを言えるようになってきた。

今後の課題として、うまくいかなかったら、満足したものを作れるように、一緒に作り方を見つけるようにする。又、友達の発表に興味を持てるように、見直し交流の仕方を工夫する。



6. 年長児の実践報告

(1) 青組(あやめ) 番組名「こどもにんぎょう劇場」

クラス人数 27名(男児14名、女児13名) 保育士: 本田 智保・宮本 美希

【年度当初の子どもの様子】

- ・進級しクラスが変わったためか、全体的に落ち着きがなく、友達とけんかになり怪我をすることが多い。
- ・相手の気持ちを受けとめられず、嫌なことを言ったり、乱暴なことをしてしまったりする。
- ・一つ一つの活動に対して興味を持ち、当番活動や保育士の手伝いを積極的に行うことができる。

【ねらい】

- ・視聴を通し、お話の世界を楽しみ、友達と共感し合う。
- ・登場人物の気持ちを考え、心の揺れを感じたままに表現し、楽しむ。
- ・友達の気持ちを考え、思いやりの心を持つ。

【視聴活動での配慮】

- (視聴前・視聴中) ・椅子の配置、テレビの位置を整え、落ち着いて視聴できる環境を作る。タイトルを伝え、テレビをつける。つぶやきや表情の変化を受け止め、保育士も共感しながら視聴する。
- (イメージ交流) ・一人一人の思いを伝え、友達の気持ちに共有や分有ができるようにする。
- (発展活動) ・心の揺れを感じたままに表現できるように援助をし、満足感が味わえるようにする。
- (見直し交流) ・思ったこと、感じたことに共感し、表現する楽しさを味わえるようにする。

実践の記録

実践事例1 視聴日 平成21年4月24日 番組「さんねんねたろう」

視聴日 平成21年5月21日 番組「おやゆびひめ」・・・
アンデルセン



実践事例2 視聴日 平成21年6月16日 番組「ブレーメンの音楽隊」

視聴日 平成21年7月 6日 番組「ふるやのもり」・・・
日本昔話



視聴日 平成21年7月23日 番組「あまんじゃくと
うりこひめ」・・・
日本昔話




視聴日 平成21年8月 7日 番組「かたあしだちょうの
エルフ」・・・
おのきがく



実践事例3 視聴日 平成21年8月31日 番組「銀の泉」


視聴日 平成21年4月24日

番組組	「さんねんねたろう」	日本昔話
	 <p style="text-align: center;">番組場面</p>	<p>あらすじ</p> <p>古昔、太郎というノンキ者が母親と暮らしていました。いつも寝てばかり……起きているのを見かけるのは、三年に一度ぐらいだ……。そこで村人は「三年寝太郎」と呼んでバカにしていました。「でも、怠け者じゃないつもり……」と太郎は心ひそかに思っていました。</p> <p>なんと夢の中で「水枯れの田畑に水をひくには？」を考えていたのです。庄屋の娘お花は、そんな変わり者の太郎が好きでした。さて？</p>



	視聴前・視聴中	イメージ交流	発展活動	見直し交流
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 椅子に座って集中して視聴する。中には、友達に話しかけたり、立ち上がったりの子どももいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いや感じたことなどを、手をあげて言おうとする。 思いが言えず友達の思いを聞いているだけの子どももいる。 見たこと聞いたことだけを長く話してしまう子どももいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵を描いたり、紙を切って貼ったりする。 友達が作ったものを見て真似をしたり、工夫して作ったものを保育士に見せたりし、共感を求める姿がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 椅子に座り、作ったものを保育士や友達に紹介する。 作ったものを見せたがるが、思いが言えない子どももいる。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> 視聴開始時間より早く準備をしたので、落ち着かなかった。準備にかかる時間を把握しておく。 保育士の座る位置が悪く子どもの視線がテレビから離れてしまっていたので、子どもがテレビを見ながら保育士の表情が見える位置に座る。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の思いを時間をかけて聞いていたため、子どもが飽きてしまった。短時間でも子どもの思いを伝えるようにする。 聞いて欲しいという思いが強くて、長く話をしてしまう子どもの思いを受け止められなかったので、個別にスキップをとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもがどんな思いで作ったのか分かるように、子どもの思いと作品内容を書いておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品紹介だけをしてしまい、表現した時の思いまで伝えられなかった。今後は、その時どんな思いで描いたのか聞くようにする。 椅子の並べ方が悪く、前に座っている友達の顔が見えなくなったので、輪になって座るようにする。


視聴日 平成21年6月16日

番組	<p>「ブレーメンの音楽隊」</p>  <p>番組場面</p>	<p>グリム</p> <p>あらすじ</p> <p>役立たずになってしまったロバと犬と猫とオンドリが、飼い主のもとをはなれてブレーメンという町に行くことにしました。町の音楽隊にやとってもらおうと考えたのです。道すがら、ごちそうを食べているどろぼうの家を見つけた四匹は、その家からどろぼうを追い出して、ごちそうをいただくことにしました。相談の結果、ロバ、犬、ネコ、オンドリの順に背にのって、窓辺でいっせいに音楽をはじめたのです。ヒヒーン、ワン、ニャー、コケッコーと。</p>
----	--	--



	視聴前・視聴中	イメージ交流	発展活動	見直し交流
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日は何を見るの」と楽しみにしている。 ・「怖い」や「面白い」などつぶやく子どもが多い。 ・視聴中、保育士の表情を見たり、友達の表情を見たりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビを見終わると静かに落ち着いて手をあげ、思いを言う。 ・恥ずかしくなり声が小さくなってしまふ子どももいるが、言葉がけをするとうちに聞こえるような声で話ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「楽器を使って遊びたい」「曲に合わせて踊りたい」と言う子どもが多く、様々な楽器で表現し、楽しむ。 ・園にない楽器（ギター、太鼓、バイオリン）は廃材を使って、作ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集まるように声をかけると楽器や作品を持って椅子に座ることができる。 ・楽器を持っている子どもが仲間になって演奏をしたり、作品を発表したりする。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・番組を期待して見られるようになった。以前は、つぶやきに反応する子どももいたが、すぐに集中して視聴することができるようになった。今後も様子を見守っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うまく気持ちを伝えられない子どもに過大な言葉の援助をしていたので、子どもから話し始めることができなかつた。今後は見守りながら必要に応じて声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがギターを作ろうとしたが、弦にする廃材がなく、思うように作れなかつたので、様々な表現方法を予想して事前に準備しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで楽器を使い、演奏することで、ふだん、思いを言えない子どもも楽しんでいる姿が見られた。又、他の楽器も使いたいという意見があったので、準備しておく。

視聴日 平成21年8月31日

番組組	<p>「銀の泉」</p>  <p>番組場面</p>	<p>田村洋</p> <p>あらすじ</p> <p>砂漠の真ん中にある、小さなオアシス。その澄んだ泉のまわりで、動物たちは仲よく暮らしていました。ところがある日、瀕死のヘンという生き物を助けたことによって、泉の生活は一変してしまいます。ヘンはどんどん増殖して、木をきり倒し、大工場を設立すると、泉の水をひとりじめしてしまったのです。泉を守るために立ち向かい、はじき飛ばされる動物たち。</p> <p>やがてすっかり滴れてしまった泉の中で、ヘンは黒い塊となりました。そしてようやく自分がしたこと気づいて、涙を流しはじめたのです……。</p>
-----	--	---



	視聴前・視聴中	イメージ交流	発展活動	見直し交流
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴することを伝えると、友達と誘い合って椅子を持ってきて座ろうとする。 ・つぶやく子どもが多いが、つぶやくことさえできず集中して視聴できる子どもがいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を言う時にみんなに聞こえる大きな声で話せる子どもが増える。 ・友達の思いに対してどう感じたかを考えて話そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペープサートの作り方を教えると、興味を持ちまねて作る。 ・紙芝居にしたいという子どもも多く、何枚も楽しんで描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペープサートを作った子どもは、演じながら気持ちを表現する。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・つぶやきが多く、視聴している時に話をしてしまう子どもがいたので、落ち着いて視聴できるような環境を作る。 ・つぶやくことすらできず、集中して視聴できるようになった子どもがいたので、視聴する回数を増やしてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お話に対しての思いは言えるが、登場人物となるとその思いをなかなか表現することができない。保育士が思いを伝えることで、子どもが考える機会を作る。 ・手をあげなくてもタイミングをみて話ができる子どもがいたので、子どもだけで話がすすめられるように必要な時だけ保育士が話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居やペープサートの作り方を知らせると、興味を持ち、楽しんでいたので、これからも様々な表現方法を知らせていく。 ・ブロックや風呂敷など表現しにくいものを使っている子どもがいるので気持ちを受け止めつつ表現しやすいものを知らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を作ることに集中し、すぐに集まることができないので事前に時間を決めて作れるようにする。 ・話をするときは自分の思いだけでなく、友だちの思いに気づけるように日常の保育の中で言葉がけをする。

成果と今後の課題

視聴前は、4月当初は、子どもたちが落ち着いて見られる場所を保育士が決めて行っていたが、繰り返し経験するうちに、6月頃から子ども自身で場所を決めることができるようになった。視聴中は、初回は、友だちと話をしていることが多く集中して見る事ができなかったが、お話の場面によって顔の表情が変わったり、次の場面を予想してつぶやくようになった。

イメージ交流では、「おもしろかった」「楽しかった」の一言だったが、同じ思いの友達と「一緒だね」と共感する姿がみられた。

発展活動では、絵を描いたり、作ったり、又、身体で表現したりする事が多かったが、7月には、文字で表現したり、グループで活動する表現になってきた。見直し交流では、一人ずつ順番に発表していたが、同じ場面を表現した子ども同士で発表できるようになってきた。

子どもの育ちとして、視聴を通し思ったこと感じたことなど心の揺れを共感し、違う思いがあることに気づき、「A君とは同じだね」「B君とは違うね」と言えるようになった。また、個々でなく友だちと協力して表現する楽しさを味わえた。まだ、今でも、友達とトラブルになることはあるが、視聴を通し、思いやりの気持ちを持てるようになり、小さい子どもに優しくできる様になってきた。

今後の課題としてイメージ交流の時、登場人物の心情に気づき心の揺れが表現できるようにすることや自分の思いだけでなく、友達の思いを自然に聞けるように言葉がけをする。また、視聴を通して思いやりの気持ちを育み、どの友達に対しても優しく接することができるようにする。



6. 年長児の実践報告

(2) 青組(すみれ) 番組名「こどもにんぎょう劇場」

クラス人数 27名(男児13名、女児14名) 保育士：萩本 知寿

【年度当初の子どもの様子】

- ・気持ちを言葉で相手に伝えることができず、けんかになってしまう。
- ・環境が変わったことで、全体的に落ち着きがなく話を集中して聞くことができず、遊んだりふざけたりしてしまう。
- ・進級したことを喜び、年下の子に優しくしたり、当番活動に意欲的に取り組んだりする。

【ねらい】

- ・ストーリーや登場人物の気持ちを考え、豊かな感性と想像力を高める。
- ・思いを様々な方法で表現し、友達と協力し、遊びを発展させ楽しむ。
- ・相手の立場になって考え、優しさや思いやりの心を持つ。

【視聴活動での配慮】

- (視聴前・視聴中) ・テレビの位置や子ども、保育士が座る位置などの環境を整え、集中して視聴できるようにする。又、保育士も一緒に視聴し、子どもの心の揺れに共感できるようにする。
- (イメージ交流) ・友達の思いを聞き、心の共有や分有ができるようにしていく。又、話をする時は、大きな声ではっきりと相手に伝え、聞く時は集中して聞くように声をかける。
- (発展活動) ・心の揺れを様々な方法で表現できるように、必要なものを用意しておく。又、出来上がった作品や思いに共感し、満足感を味わえるようにする。
- (見直し交流) ・心の揺れを言葉で相手に伝えられるように声をかける。又、思いの共有や分有をしたり、様々な表現方法があることに気づき互いに認め合えるようにする。

実践の記録

実践事例1 視聴日 平成21年4月24日 番組「さんねんねたろう」

視聴日 平成21年5月29日 番組「おやゆびひめ」・・・
アンデルセン



視聴日 平成21年6月18日 番組「ブレーメンの音楽隊」・・・
グリム



実践事例2 視聴日 平成21年7月6日 番組「さるじぞう」

視聴日 平成21年7月23日 番組「銀の泉」・・・
田村洋




視聴日 平成21年8月5日 番組「かたあしだちょうの
エルフ」・・・
おのきがく



実践事例3 視聴日 平成21年8月20日 番組「ふるやのもり」


視聴日 平成21年4月24日

番組組	<p>「さんねんねたろう」</p>  <p>番組場面</p>	<p>日本昔話</p> <p>あらすじ</p> <p>古昔、太郎というノンキ者が母親と暮らしていました。いつも寝てばかり……起きているのを見かけるのは、三年に一度ぐらいだ……。そこで村人は「三年寝太郎」と呼んでバカにしていました。「でも、怠け者じゃないつもり……」と太郎は心ひそかに思っていました。なんと夢の中で「水枯れの田畑に水をひくには？」を考えていたのです。庄屋の娘お花は、そんな変わり者の太郎が好きでした。さて？</p>
-----	---	--



	視聴前・視聴中	イメージ交流	発展活動	見直し交流
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> テレビの前に座り、視聴を楽しみに待つ。 最初は落ち着かなかったが徐々に落ち着き視聴する。集中できず、友達と話をしたり遊んだりする姿もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 手をあげ「〇〇がおもしろかった」と思いを言うが、友達の思いを聞いているだけの子どももいる。 友達の思いを集中して聞けず、近くの子どもと話をしている姿もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵を描いたり、紙で切ったり貼ったりして、思いを表現し、嬉しそうに保育士や友達に見せている。 一つ作る子どももいれば、いくつも作る子どももいる。 友達と遊び始めたり、関係のないものを作ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育士の言葉がけにより集まるが、作り続けたり、遊んだりしている姿もある。 作品を、保育士や友達に紹介する。 友達の作品を集中して見ることができない。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> 座る位置の配慮が足りず集中できない子どもがいた。集中できない子どもは保育士の近くに座るなど、集中できるようにする。 保育士の座る位置が悪く、子どもから保育士の表情が見えず心の揺れを共感できなかった。子どもから表情が見える位置に座り、心の揺れを共感しながら楽しんで視聴できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 集中できない子どもが、なぜ集中できないかを考えずに、静かにするように声をかけるだけだった。長くなりすぎて飽きてしまわないようにしたり、思いを十分に受け止め共感したりしていくことで、集中できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> お話と関係のないものを作っている子どもにばかり声をかけてしまい、他の子どもにあまり声をかけていなかった。一つ作った子どもは、本当に満足したのか、いくつも作っている子どもは、思いを表現するのではなく、作ることを楽しんでいないかなど考え、一人一人に声をかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの作品に、何を作ったかしか書いていなかったため、思いまで発表できなかった。今後は子どもの思いも一緒に書いておくようにする。 作っている途中の子どもを集め、見直し交流を行なったので、まだ作りたいという子どもが十分に思いを表現できずに終わってしまった。今後は、作り終わった子どもから集めて行なうようにする。 保育士の前に子どもを集めて行行ったが、友達の作品が見つらかったり、落ち着かなかったりした。今後は、輪になり椅子に座って行う。


視聴日 平成21年7月6日

番組組	<p>「さるじぞう」</p>  <p>番組場面</p>	<p>日本昔話</p> <p>あらすじ</p> <p>昔、おじいさんが、おもちを持って畑に行きました。すると大勢のサルがやってきて、ワイワイいながら、おもちを食べはじめました。おじいさんは、じっと座って黙っていました。サルたちは、おじいさんを地藏と間違え、みんなでかつぎあげ、おもしろい歌をうたいながら川を渡り、山の上におじいさんを安置して拝みました。たくさんの宝ものをお供えて……。</p>
-----	--	--



	視聴前・視聴中	イメージ交流	発展活動	見直し交流
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 椅子を並べ、好きな位置に座り視聴する。 心の揺れをつぶやいたり、画面に見入っていたり、話の展開を予想して楽しんだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもから「順番に言っていきたい」と意見が出る。 「〇〇と一緒にじゃん」と思いの共有を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ブロックで表現する子どもがいるが、多くの子どもがお話の内容と関係ない物を作っている。 登場人物をよく見て、絵の具を使い細かなところまで描こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ思いの子ども同士で発表し、思いの共有を楽しんでいる。 自分の作品を紹介し終わると、遊び出したり席を離れたりする。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に集中して視聴できたが、保護者の自由参加日だったので、保護者が入りし集中が途切れてしまう子どもがいた。予め保護者の出入りがあることを伝えておくべきだった。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの意見に沿って、順番に発表していくことが出来た。 思いの共有を楽しむ姿が多く見られるようになってきた。違う思いにも気づくような言葉かけをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵による表現も、初めのころに比べ、登場人物の細かなところまで描こうとする姿が見られる。一人一人の変化に気づき声をかけるようにする。 関係のない物を作って遊んでいる子どもには、視聴した思いを聞き、その思いを表現できるように声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ思いの子どもと一緒に発表することで、思いの共有はできていたが、違う思いの子どもに気づき楽しめるように言葉をかけることができず、発表し終わった子どもが集中できなくなってしまった。友達の思いに興味を持てるような言葉かけをする。

視聴日 平成21年8月20日

番組組	<p>「ふるやのもり」</p>  <p>番組場面</p>	<p>日本昔話</p> <p>あらすじ</p> <p>ある雨の夜、オオカミと泥棒が馬を盗もうと古びた農家に忍び込みました。そこにおじいさんとおばあさんの話し声が聞こえてきます。</p> <p>「世の中でいちばんこわいものは『ふるやのもり』だ。ほらそろそろやってくるぞ」</p> <p>オオカミと泥棒は、「ふるやのもり」のことを知りません。震え上がった泥棒がオオカミの上に落ちてしまい、オオカミはびっくり仰天。「ふるやのもりにつかまった!」といちもくさんに駆け出しました。一方、泥棒はオオカミを『ふるやのもり』だと思い込み、落ちたら食われるとますますしがみつき・・・</p>
-----	---	--



	視聴前・視聴中	イメージ交流	発展活動	見直し交流
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 好きな場所に座り、視聴を楽しみに待つ。 全体的に落ち着いた雰囲気の中で集中して視聴できるが、集中できない子どももいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「手をあげずに言っていよ」と伝えると、子どもによって思いを言えたり言えなかったりする。 登場人物の心情を聞くと、多くの子どもが言葉で表現できず、「分からない」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ブロックや絵、粘土などで表現しており、中でも多くの子どもがブロックで友達と一緒に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いを言ったり、作品を見せたいという気持ちは強いが、友達のものを見たいという気持ちがあまりなく、近くの子とも話をしたり、じっとして居られなくなったりする。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いて視聴するために配慮の必要な子どもを、保育士の近くに座るようにしたが、配慮が不足し仲の良い子どもと隣になり、おしゃべりしていた。今後は、保育士の近くに座るだけでなく、その子どもの周りに座る子どもも考え位置を決めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士で思いの交流ができるようにしたが、そのような経験がなく、思いの交流ができなかったので、普段から、意見を言いやすい雰囲気を作っていく。 登場人物の心情を言葉で表現できるように、普段の生活の中で、保育士が登場人物の心情を伝えたり相手の立場になって考えられるような機会を作ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回と違う表現方法があることを伝えてなかったため、前回に比べ変化がなかった。次回は廃材を用意し、それを使い表現してもよいことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 今まで保育士が主に進めていたが、今後は、イメージ交流と同様に子ども中心に進められるようにする。 まだ友達の思いを集中して聞けない子どもが多い。子どもが集中できるように進めているかを見直すと共に、普段の保育の中で、話を聞くことの大切さを伝え、話を聞く態度を身につけられるようにしていく。

視聴前、視聴中は4月当初、保育士が視聴する場所を決めていたが、現在では子どもたちが好きな場所に座り、落ち着いて視聴できるようになった。又、視聴中も話の展開を予想したり見入ったりする子どもが多くなってきている。

イメージ交流では、4月当初は思いを言葉で表現できなかったり、友達のまねをしたりする子どもが多かったが、自分の思いを言葉で表現し、思いの共有を楽しむ姿も多く見られるようになってきた。

発展活動では、登場人物になって演じる子どもはいるが、絵、粘土、ブロックで表現する子どもがほとんどで、まだ表現方法が乏しい。

見直し交流では、思いを発表できない子どもが多くいたが、現在では、十分に相手に伝えられるようになってきている。又、友達に見せたいという思いが強くなり、見直し交流を楽しみにしている子どもが増えてきた。

絵を描いたり文字で書いたり作ったりといくつかの方法で思いを表現できるようになったが、一場面の思いだけでストーリー全体を把握して表現することはできない。登場人物の心情も保育士が問いかけると「分からない」と言う子どもが多い。

友達との関わりでは、相手の立場になって考えることは、まだできていない子どもが多く、衝突してしまう場面も見られる。

今後の課題として、発展活動は、ブロックで表現する子どもが多いが、ブロックでは細かい心情まで表現しづらいので、ブロック以外の様々な方法でも表現できるようにしていく。視聴中は、登場人物の心情を考えたり、ストーリー全体を楽しめるようにし、イメージ交流や見直し交流の時には、子どもが自由に思いを言い合い、交流できるようにしていく。



今日を迎えるまで、大阪教育大学の松本先生のご指導とともに公開保育の視聴の実践を6回行い、放送教育に約一年間取り組んできました。目に見える知識ばかりでなく、見えない心を育てることの大切さ、難しさを感じてきました。

放送教育で大切にしていることは決して特別なことではなく、日頃の保育でも、とても大切なことばかりでした。一つの環境として放送を利用しているだけで、これが砂場遊び、集団遊びになっても同じことが言えます。同一体験をし、心の交流をすることで共感したり、また、違う思いに気付いたりし、自分の思いを表現することで、友達や保育士に認められ、自信へとつながっていきます。言葉で言うのは簡単ですが、わかっているにもかかわらず子どもの心の発信が受け止められていなかったり、子どもの育ちが見えておらず保育士の援助や関わりが間違っていたりと、松本先生に指導していただくたびに気付かされることばかりでした。

しかし、保育というものを今一度見つめなおし、日々、自分の保育を反省する良い機会になりました。子どもは日々成長しており、その姿を捉え、いつも育てたい姿を考え保育することの大切さ、また、そこで見える子どもの育ちが保育の質になります。

これは、今年度告示化された、新保育所保育指針の第4章、2保育の内容等の自己評価の中にある「子どもの活動内容やその結果だけでなく、子どもの心の育ちや意欲、取り組む過程などに十分配慮すること」「自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にするとともに、保育所全体の保育の内容に関する認識を深めること」に、すべて当てはまります。

まだまだ、発展途上の私たちですが、放送も一つの環境として上手く利用し、これからも日々の保育から見直し、子どもの心を育てられるように努力していきます。そして、夢・空想の発信のできる子どもに育てていきたいと思えます。



心のゆれを、表現することが楽しくなれば、どんどん心豊かになって、発展していきます。表現は、言葉や体で、絵に描いたり作ったり、音にして。



保育の質とは何か・・・
それは、子どもの姿です。

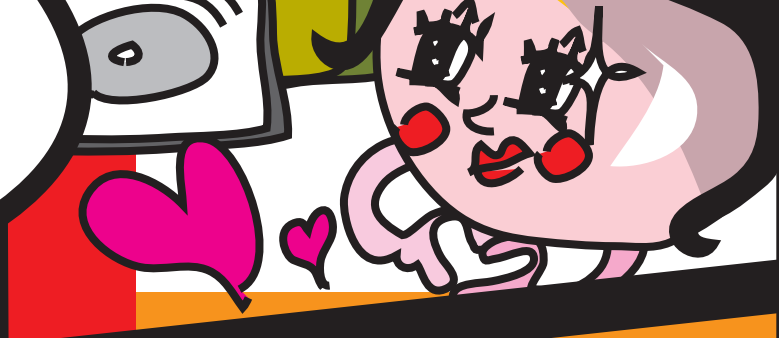
放送はみんなのために
みんなは放送のために



全国大会だなんて、逆上がりできないのに大車輪に挑戦するみたいだな



えええ・・・地デジ録画したら、CPRMというコピー制御されていて、それに対応したDVDプレーヤーでないと見られないの・・・
取り組みでだし、くじけた。



新しいDVDプレーヤーをおねだり、おねだり。テレビはアナログでも、DVDプレーヤーにつながれば、まだまだ使えます。
画面の縦横の比を調節するのがポイントです。



子育てには、自然が大事という人がいて、なかには、アンチ放送教育という人がいるけれど、放送教育だからこそ出来る子育てがあるんです。